北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

# Reading well ―教育大生に贈る本― vol.2



| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2022-03-23<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.32150/00010804 |

# READING WELL

Vol.2

— 教育大生に贈る本 —

北海道教育大学附属図書館

Vol.2

# Reading Well

## ― 教育大生に贈る本 ―

北海道教育大学附属図書館

# 巻 頭 言

もし、自分の知人のお子さんが大学に入学したら、その子にどんな本を贈りたいですか？そんなコンセプトで本学教員にお願いして出来上がったものが、このブックガイドです。

さて、2020年1月以降、コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの日常生活も様変わりしました。人との接触が制限され、1人でいる時間が増えました。コロナ以前であれば、楽しいことの多くは外の世界にありましたから、1人でいる時間をどう過ごそうかとあえて考える必要もありませんでした。しかし、突然、外の世界との接触が制限され、1人でいる時間が増えたことで、淋しさや孤独感が増大するとともに、1人でどのように過ごせばいいのかわからず、未だ戸惑っている学生さんも多いと思います。

そうした時に、ちょっと発想を変えて、どうしたら1人でいる時間を楽しく過ごすことができるかを考えてみては、と提案したいのです。そう提案すると、おそらく学生の皆さんは、SNS等に目が向くと思います。そこにもう1つ、読書という選択肢を入れて欲しいというのが私のお願いです。

読書は、時間・空間を越えて先人たちが積み重ねてきた工夫や知見を瞬時に得ることができ、かつ自分の視野を広げるという効用があります。また、読書は、自分のペースで何度でも読み返すことで、自分の考えを深めることもできます。

1人でいる時間をネガティブなものとせず、ポジティブなものとするために、このブックガイドから1冊、直観でいいなと思える本を選択し、コーヒーでも飲みながら堪能してみてはいかがでしょうか。賢明な皆さんのことだから、きっと読書の面白さに気づき、読書を1人でいる時間の充実に上手く活用することで、コロナ下にあっても心豊かな生活と確かな成長の実感を味わうことができるはずです。

北海道教育大学附属図書館長
海老名　尚

# 目　次


なぜ、日本は太平洋戦争へと突き進んでいったのか　海老名　尚　1
太平洋戦争への道1931－1941（半藤一利ほか編著）

深い勉強（ラディカル・ラーニング）　稲井　智義　2
勉強の哲学一来たるべきバカのために（千葉雅也著）

数学は本来素晴らしいもの　後藤　俊一　3
あなたを支配し、社会を破壊する、AI・ビッグデータの罠（キャシー・オニール著）

センスがない人は、だからこそ読もう　三上　修　4
伝わるデザインの基本一よい資料を作るためのレイアウトのルール（高橋佑磨ほか著）

創造性、新しい発想を求められる人のために　前田　英伸　5
進化思考一生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」（太刀川英輔著）

多様な人と地域づくりをするためには「愛」が必要だ！　古地順一郎　6
愛するということ（エーリッヒ・フロム著）

虚構（フィクション）が文明を創り上げた！　村田　敦郎　7
サピエンス全史一文明の構造と人類の幸福（ユヴァル・ノア・ハラリ著）

名前とあだ名から見た西洋中世史　津田　拓郎　8
あだ名で読む中世史一ヨーロッパ王侯貴族の名づけと家門意識をさかのぼる（岡地稔著）

日本の景観について考えてみませんか？　酒井多加志　9
ニッポン景観論（アレックス・カー著）

大学で学ぶ意味を知りたい学生の必読書！　古地順一郎　10
創造の方法学（高根正昭著）

シリア内戦最激戦地アレッポの日本語学生たちの1800日　伊藤　美紀　11
ぼくらはひとつ空の下一シリア内戦最激戦地アレッポの日本語学生たちの1800日（優人著）

北海道150年の理解を深めよう！　川前あゆみ　12
アイヌからみた北海道150年（石原真衣編著）

ミクロ経済学を楽しく深く学べる　福原　崇之　13
ミクロ経済学一戦略的アプローチ（梶井厚志ほか著）

ゲーム理論のエッセンスを学べる書　福原　崇之　14
16歳からのはじめてのゲーム理論一“世の中の意思決定”を解き明かす6.5個の物語（鎌田雄一郎著）

絵本です。　伊藤　美紀　15
ランカーにほんにやってきたおんなのこ（野呂きくえ作/松成真理子絵）

「識字教室」一他館から借りてでも読む価値のある本　菅　正彦　16
歩一識字を求め、部落差別と闘いつづける（山本栄子著）

生活保護って何？日本国憲法第25条に真正面から向き合う、生活保護のケースワーカー奮闘劇！　木戸口正宏　17
健康で文化的な最低限度の生活（柏木ハルコ著）

「自分は誰？」という問いに応える「記録」　二井　仁美　18
私の記録、家族の記憶一ケアリーヴァーと社会的養護のこれから（阿久津美紀著）

福祉施設や特別支援学校へ介護等体験実習に行く人におすすめの1冊　千賀　愛　19
重い障害を生きるということ（高谷清著）

「優等生」にも支援が必要な理由　齋藤暢一朗　20
ひきこもる心理とじこもる理由ー自立社会の落とし穴（高塚雄介著）

よく聞くいじめ問題の話。その「わかりやすさ」にとらわれていませんか？　稲葉　浩一　21
囚われのいじめ問題 - 未完の大津市中学生自殺事件（北澤毅、間山広朗編）

世界の学校から日本の教育を俯瞰しよう！　川前あゆみ　22
世界のしんどい学校ー東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み（志水宏吉監修）

学校はどこから来たか。その歴史と課題。　稲井　智義　23
学校の戦後史（木村元著）

公立学校の「格差」を考える！　川前あゆみ　24
二極化する学校ー公立校の「格差」に向き合う（志水宏吉著）

デジタル時代の教育＝デジタル・シティズンシップ教育を知り、実践するために　池田　考司　25
デジタル・シティズンシップーコンピュータ１人１台時代の善き使い手をめざす学び（坂本旬ほか著）

算数・数学とそれを学ぶ子どもたちへの愛情あふれる一冊　樺沢　公一　26
算数が大好きになる事典（上野富美夫著）

幼児教育は社会との関連のなかでどのようにつくられてきたか。　稲井　智義　27
ＭＩＮＥＲＶＡはじめて学ぶ教職　幼児教育（小玉亮子編著）

障害や貧困・不登校を含めて「すべての子ども」が学べる小学校のヒント　千賀　愛　28
「みんなの学校」が教えてくれたこと一学び合いと育ち合いを見届けた3290日（木村泰子著）

学校のあり方と教師の役割。　稲井　智義　29
「みんなの学校」をつくるために一特別支援教育を問い直す（木村泰子ほか著）

日本人はどのように生きてきたのか。現代に生きる私たちが振り返るための書　村田　敦郎　30
忘れられた日本人（宮本常一著）

“ゴールデンカムイ”に学ぼう！　川前あゆみ　31
ゴールデンカムイ（野田サトル著）

知識は認識論的障害をのりこえて勝ちとられる　大滝　孝治　32
科学的精神の形成ー対象認識の精神分析のために（ガストン・バシュラール著）

「リケジョ」という言葉が使われなくなる日が来ることを願って　菅　正彦　33
理系の扉を開いた日本の女性たちーゆかりの地を訪ねて（西條敏美著）

数論の世界への興味を掻き立てる珠玉の一冊　樺沢　公一　34
ゼロから無限へー数論の世界を訪ねて（コンスタンス・レイド著）

視聴率はどこまで信頼できるか？テストの偏差値はどうやって計算するのか？　種市　信裕　35
やさしい統計入門ー視聴率調査から多変量解析まで（田栗正章ほか著）

虫好きな人も、そうでない人も、昆虫の行動や姿に思わず、へぇーっと感心する本　髙久　元　36
昆虫はすごい（丸山宗利著）

モンシロチョウの気持ちに寄り添って、結婚相手の見つけ方を探求してみよう　木村　賢一　37
モンシロチョウーキャベツ畑の動物行動学　（小原嘉明著）

実は鳥をこよなく愛していることが伝わる鳥類学者の自然科学エッセイ　髙久　元　38
鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。（川上和人著）

震災の１日前で良いから読みたかった　浅井　継悟　39
心の傷を癒すということ一大災害と心のケア（安克昌著）

**いま何が起こっているのか** 後藤　俊一　40
感染症と文明ー共生への道（山本太郎著）

**教室の中には、色覚のタイプの異なる生徒がいるかも知れません** 木村　賢一　41
色弱の子どもがわかる本ー家庭・保育園・学校でできるサポート術（カラーユニバーサルデザイン機構原案）

**最強の免疫力を手に入れろ！** 杉山　喜一　42
世界最新の医療データが示す最強の食事術ーハーバードの栄養学に学ぶ究極の「健康資産」の作り方（満尾正著）

**仁義なき戦い　病vs.人類** 角　美弥子　43
感染地図ー歴史を変えた未知の病原体（スティーヴン・ジョンソン著）

**北海道で生きるということ** 大橋　賢一　44
ヒグマとの戦いーある老狩人の手記（西村武重著）

**絵を見る楽しみを増やしてみる** 三上　修　45
簡単すぎる名画鑑賞術（西岡文彦著）

**壁にぶつかった時にマインドセットを変えてみよう！** 杉山　喜一　46
前向きに、考える一演奏家のためのメンタル強化術（矢野龍彦著）

**目指せ！努力の天才！** 杉山　喜一　47
努力の天才ー高橋尚子の基礎トレーニング（山内武著）

**いろいろな外国語ー英語以外も面白い** 砂川　典子　48
外国語の水曜日ー再入門（黒田龍之助著）

**現代から古代へ、朝鮮から中国、そしてインドへー「漢文訓読」の大いなる旅路を辿る** 関谷　由一　49
漢文と東アジアー訓読の文化圏（金文京著）

**古文嫌いの君へ** 内藤　一志　50
サイエンス・ライターが古文のプロに聞く こんなに深い日本の古典（黒澤弘光ほか著）

**女を男にし、絵の中の風景に入り込み、君臣上下を一つの世界に取り込む和歌のパワー** 関谷　由一　51
和歌とは何か（渡部泰明著）

**読みすぎると病気になるかもしれない本** 三上　修　52
燃えよ剣（司馬遼太郎著）

**疲れた心にやさしいひとときを** 後藤　俊一　53
学校のぶたぶた（矢崎存美著）

**漫画の神様・手塚治虫の遺稿に、直木賞作家・桜庭一樹が新たな命を吹き込む!!** 木戸口正宏　54
小説 火の鳥 大地編（桜庭一樹著）

**孤独に粘り強くものごとを考える力は、物語を読むことでしか育たない。** 菊野　雅之　55
騎士団長殺し（村上春樹著）

**地下鉄サリン事件被害者の1人1人の人生の物語** 三上　謙一　56
アンダーグラウンド（村上春樹著）

**「きっとはったりだよ、フェルマーは法律家だからね」** 後藤　俊一　57
文学少女対数学少女（陸秋槎著）

**クリスティーがどのように面白いのかをなぜだれも教えてくれないのか** 中川　大　58
アガサ・クリスティー完全攻略 決定版（霜月蒼著）

**わたしたちだれも『罪と罰』を読んだことがない** 中川　大　59
『罪と罰』を読まない（岸本 佐知子ほか著）


※推薦者の所属は2022年3月時点のものです。

# なぜ、日本は太平洋戦争へと突き進んでいったのか

## ー満州事変から太平洋戦争までの歩みから何を学ぶかー

### 『太平洋戦争への道 1931 − 1941』

半藤一利、加藤陽子、保坂正康（編著）

出版社：NHK出版（NHK出版新書）／出版年：2021年／
ISBN：9784140886595

推薦者　**海老名 尚**　理事・附属図書館長

2021年は、太平洋戦争の開戦から80年となります。皆さんは、どれほど太平洋戦争のことを知っているのでしょうか。80年前の戦争を知っていまさら何の役にたつのか、と思うのもわからないではありません。しかし、太平洋戦争や近代日本の歩みを知ることは、現代を生きる我々にも密接に関わっていることを忘れてはなりません。

なぜなら、現代の日韓関係や日中関係の課題を解決するためには、どうしてもこの太平洋戦争や近代日本の対外政策を詳しく知る必要があるからです。あるいは、日本が二度と同じ失敗を繰り返さないためにも、太平洋戦争に至る歴史過程を分析し、そこから教訓を学ぶ必要があるからです。

本書は、NHKラジオの特集番組「太平洋戦争への道ー戦前日本の歴史の選択ー」（2017年８月15日放送）をもとにまとめたものです。すなわち、加藤陽子氏、半藤一利氏、保坂正康氏の３氏が、「満州事変・満州国建国」、「国際連盟脱退」、「五・一五事件・二・二六事件」、「日中戦争」、「日独伊三国同盟」、「日米交渉の失敗」６つの分岐点に焦点をあて議論を行い、1931年の満州事変から1941年の太平洋戦争開戦へと至るまでの日本の選択について検証するという構成になっています。

内容は３氏の鼎談となっているため、この時代の歴史をよく知る人には物足りなさを感じるかもしれません。とはいえ、初心者にとっては、満州事変から太平洋戦争までの流れがコンパクトにまとめられており、昭和戦前史を概観するにはもってこいの書籍となっています。

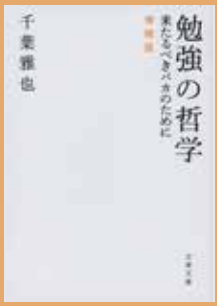
必ずや、本書を読んだ後、満州事変から太平洋戦争までの歴史をあらためて紐解いてみたいという欲求にかられる、そうした1冊です。

# 深い勉強（ラディカル・ラーニング）

## 『勉強の哲学
## ―来たるべきバカのために（増補版）』

千葉雅也（著）

出版社：文藝春秋（文春文庫）／出版年：2020年
ISBN：9784167914639




推薦者　**稲井 智義**　旭川校　教育発達専攻 幼児教育分野

「勉強は変身である」、「勉強は自己破壊である」。誰もが勉強をしたらよいわけではない。勉強をすると「ノリが悪くなる」。「環境＝他者＝自分以外のものすべて」に支配されている「自分」が少しでも「自由」になるためにはどうしたらよいか。具体的な勉強方法を示しながら語られる。大学での学び方（アカデミックスキル）も学べる。教師は有限化する存在。信頼できる他者は、勉強を続けている人。比較が大切。著者の共著では『ライティングの哲学―書けない悩みのための執筆論―』（星海社新書、2021年）や『言語が消滅する前に』（幻冬舎新書、2021年）もある。幼児教育の基礎概念（環境、言葉、表現、人間関係、健康）を深く考えることもできる。著者が専門とするフランス現代思想の入門書でもある。

比較のためにアカデミックスキルに関する本を挙げると、佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第3版）―大学生のための知的技法入門―』（慶應義塾大学出版会、2020年）、戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHKブックス、2022年）がある。

# 数学は本来素晴らしいもの

## 『あなたを支配し、社会を破壊する、AI・ビッグデータの罠』

キャシー・オニール（著）　久保 尚子（訳）

出版社：インターシフト／出版年：2018年／ISBN：9784772695602

推薦者　後藤 俊一　札幌校　理数教育専攻 算数・数学教育分野

原題は"Weapon of MATH Destruction"（数学殺人兵器）です。電子計算機の高速化によって大容量のデータを解析することが可能となり、それが導き出した結果を用いて、複雑になった現代社会のあらゆる問題の解決をはかろうという風潮が近年高まってきています。すでにその影響を身近に感じている人もいるでしょう。

なぜ数学がひとを殺すのか。著者は米国の事例を紹介していますが、わたしたちにとってもひとごとではありません。

日本が世界の趨勢に立ち遅れているとの危機感の中、2017年4月には滋賀大学にデータサイエンス学部が誕生しています。それを皮切りにデータサイエンティストを養成するコースがいくつもの大学に開かれました。さらに今後は、小学生のうちからデータの扱いを学ぶようになります。

未来社会が普通の人にとって暮らしやすいものになりますように。

# センスがない人は、だからこそ読もう

## 『伝わるデザインの基本
## ― よい資料を作るための
## レイアウトのルール（増補改訂３版）』

高橋 佑磨、片山 なつ（著）

出版社：技術評論社／出版年：2021年／ISBN：9784297119850

推薦者　三上 修　函館校　地域協働専攻 地域環境科学グループ

「文字や情報は意味が伝わればよいのであって過度な装飾はしないほうが良い」という考え方はもちろんある。私もそう思っていた時期があった。しかし、それは自分が色などを使うセンスがないことへの裏返しかもしれない。実際には、装飾をすることで意味がより鮮明に伝わることはたくさんある。むしろ、その技術を知らない人は、自分の伝えたいものを伝えられず損をしているかもしれない。上記で紹介するような本は、センスがある人は手に取りやすい。しかし自分にセンスがないと自覚している人は、だからこそ読んでみるとよい。本書を開いてみると、たくさんの事例があって、フォントのサイズや色について、場面ごとの使い分けが理屈とともに説明されている。これを読めばいきなり素晴らしいデザインのプレゼンファイルやポスターが作れるわけではない。しかし、現状よりも確実に良いものができるだろう。一度そういう意識が身につくと、さまざまなデザインをそういう目で見るようになるので、見たものからどんどん吸収できるようになる。まずは、本書を手に取って、パラパラとめくるところから始めてみてはどうだろうか。

# 創造性、新しい発想を求められる人のために

## 『進化思考
### ―生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」』

太刀川 英輔（著）

出版社：海士の風／出版年：2021年／ISBN：9784909934000

推薦者　前田 英伸　岩見沢校 美術文化専攻 美術・デザインコース

これまでにない新しい発想を生み出すためには、スキルが必要です。

そのスキルとは、「発想法」「創造工学」などと呼ばれる「考えるための方法」なのですが、厄介なことに、これらを用いれば必ず革新的なアイデアが生まれるとは限りません。しかし、これら「考えるための方法」は、確実に思考の質的な転換をもたらすものである事は間違いありません。

本書は、「変異」と「適応」をキーワードに、生命進化のメカニズムと発想のメカニズムとを関連づけ、体系化されたものです。すでにこの発想が面白い！

「変異」とは、これまでの常識にとらわれない突拍子も無い発想、「適応」とは現実世界で存続していくための諸々の条件をクリアしていくための要件を意味します。この二つのバランスが取れたアイデアが、世の中に受け入れられ、変革を進めていく力になるのです。

ページ数は500ページくらいありますが、図版も多く、表現は平易です。

岩見沢校の学生たちだけでなく、デザイン思考を学びたい人、将来、教育を通して、地域に働きかける事を考えている人達は、ぜひ読んでみることをお薦めします。

# 多様な人と地域づくりをするためには「愛」が必要だ！

## 『愛するということ』

エーリッヒ・フロム（著）　鈴木 晶（訳）

出版社：紀伊國屋書店／出版年：2020年／ISBN：9784314011778

推薦者　古地 順一郎　函館校　地域協働専攻 地域政策グループ

皆さん、「愛」について考えたことはありますか。一度は考えたことがある人が多いのではないでしょうか。

でも、地域づくりと「愛」を重ねて考えたことはあるかと聞かれたら、「？？？」となる方もいらっしゃるかもしれません。

この本に出会ったのは、皆さんと同じ大学生の時でした。当時の私は、多様な民族や集団が、国家のような政治共同体でどのように平和裏に共存していくかに関心がありました。そんなとき、多民族国家の運営に関わる授業の中で、この本に出会いました。それ以来、折に触れて読み返す本になっています。

地域づくりにおいても、これまで以上に、より多様な主体が関わることが求められています。異質な主体と向き合い、協働し、各主体が持つ力を最大限に引き出すには「愛する」力を養うことが重要だと思います。

騙されたと思って読んでみてください。愛にあふれた地域づくりの重要性が見えてくると思いますよ。

# 虚構（フィクション）が文明を創り上げた！

## 『サピエンス全史 ―文明の構造と人類の幸福』

ユヴァル・ノア・ハラリ（著）
柴田 裕之（訳）

出版社：河出書房新社／出版年：2016年／
ISBN：［上］9784309226712
［下］9784309226729

推薦者 村田 敦郎 函館校 地域協働専攻 国際協働グループ

生態系の頂点に君臨するホモ・サピエンス。だが、私たちは史上唯一存在した人類ではない。アウストラロピテクスやネアンデルタール人など様々な「人類」が存在し、消えていった。だが、その中でホモ・サピエンスだけが生き残り、栄華を極めたのである。

それはなぜか？

答えは「虚構（フィクション）」の力にある。

サピエンスは集団で虚構を共有することができた。神話や宗教、法律、人権、平等、会社、国家……、存在しないものリアリティを感じる能力こそが、大勢で柔軟に協力するという空前絶後の能力を人類に与え、現在の繁栄を築いたのである。本書はその人類史である。

ハラリは、人間は虚構を信じ、それに基づいて行動するが、一方で虚構に人生を振り回されても、それほど幸福にならないことにも気付いていることを指摘する。本書はこの感覚を言語化した、優れた文明批判となっている。

また別の側面からの重要な主張は、人々が虚構を信じることでその想いが現実化するということだ。それは貨幣や法律などだけではなく、歴史的な悲劇なども含まれる。ハラリは、人類が虚構とともに歴史を歩むことについて、あらゆる文化的所産を虚構と知りつつ、盲信せず、ときには古い虚構を否定し、新しい虚構を創造することが幸福の道であると示唆して筆を擱いている。人類の壮大な歴史と未来の展望を知りたい人には必読書となっている。

# 名前とあだ名から見た西洋中世史

## 『あだ名で読む中世史
### ―ヨーロッパ王侯貴族の名づけと家門意識をさかのぼる』

岡地 稔（著）

出版社：八坂書房／出版年：2018年／ISBN：97848969942453

推薦者　津田 拓郎　旭川校　社会科教育専攻

高校で世界史を勉強した皆さんは、同じ名前・似た名前の人物が多数存在することに気がついたことと思います。入試対策において、何人もの「シャルル」、「ルートヴィヒ」、「ヘンリ」に加え、「アレキサンドロス」と「アレクサンドル」、「フィリッポス」と「フィリップ」といった、紛らわしい名前を覚えることに苦労した方も多いでしょう。なぜそんな事態が生じているのでしょう。さらに、世界史教科書には、カール「大帝」、イヴァン「雷帝」のようなあだ名が付されている人物も現れます。教科書には出てきませんが、シャルル「禿頭王」、カール「肥満王」、ルイ「吃音王」など悪口のようなあだ名で呼ばれている王様もいます。こうしたあだ名はいつ誰がつけたのでしょう。この本を読めば、こうした疑問はすべて解消することになります。

しかしこの本から得られるのは、名前とあだ名に関する雑学的知識だけではありません。本書の中で著者は、先行研究をしっかりと消化した上で、史料に基づいて新たな見解を紡ぎ出していくという歴史学者の営みを丁寧に示してくれています。本書に記された、時に執念深ささえ感じさせる緻密な研究手法は、歴史学の神髄とも言えるものです。根拠に基づかないおかしな歴史像が氾濫している現在だからこそ、歴史学者の地道な仕事ぶりを学ぶことには大きな意義があると思います。

# 日本の景観について考えてみませんか？

## 『ニッポン景観論』

**アレックス・カー（著）**

出版社：集英社（集英社新書）／出版年：2014年／
ISBN：97840872207538

推薦者　**酒井 多加志**　釧路校　地域学校教育実践専攻 社会科教育実践分野

ちょっと注意して町を歩いてみてみましょう。町には様々な商品や企業、店舗の看板で溢れていませんか？道には数多くの電柱が林立し、頭上には電線が張り巡らされていませんか？これらは日本人にとっては日常の景観なので、疑問に感じない人が多いのではないでしょうか。私もドイツの地方を巡り、派手な看板や電線・電柱のない町並みに触れるまでは、日本の町並みの醜さには気づきませんでした。

著者のアレックス・カーはアメリカ合衆国メリーランド州生まれの東洋文化史の研究者です。京都の町家や日本各地の古民家の再生事業に関わり、その活動は度々テレビで紹介されています。本書は上に記したような日本の景観の問題点を多くの写真を用いてわかりやすく解説し、美しい景観をどのように取り戻せばいいのかを提言しています。辛らつな批判もありますが、そこには深い日本への愛情を感じることができます。この本を読み、私たちは日本の景観に対してどのようなことができるのかを考えてみましょう。

# 大学で学ぶ意味を知りたい学生の必読書！

## 『創造の方法学』

高根 正昭（著）

出版社：講談社（講談社現代新書）／出版年：1979年／
ISBN：9784061455535

推薦者　古地 順一郎　函館校　地域協働専攻 地域政策グループ

大学生の皆さんが学生時代に培うべき力は何だと思いますか。いろいろあると思いますが、最も重要な力は、「答えのない問い」に取り組み、自分なりの答えをその都度導き出しながら実行していく力ではないでしょうか。

受験勉強では「正解」があり、その答えをいかに早く見つけ出すかが求められてきたでしょう。しかし、皆さんが卒業後に担っていく社会には、「答えのない問い」が溢れています。

この本には、そのような「答えのない問い」に取り組むときに必要とされる考え方や方法論の基礎が書かれています。1979年に発行された本ですが、40年以上も読み継がれています。このことからも、いかに重要なことが書かれているかわかるでしょう。

ちなみに、私のゼミはこの本の講読から始まります。この本を読んだ後、ゼミ生は自分たちがなぜ大学で学んでいるのかということを理解してくれるようになります。皆さんも、この本を読んで大学で学ぶ意味を改めて考えてみませんか。

# シリア内戦最激戦地アレッポの日本語学生たちの1800日

## 『ぼくらはひとつ空の下
## ― シリア内戦最激戦地アレッポの日本語学生たちの1800日』

優人（著）　小澤 祥子（取材・文）
青山 弘之（解説）

出版社：三元社／出版年：2021年／ISBN：9784883035335

推薦者　伊藤 美紀　函館校　地域協働専攻 国際協働グループ

戦地で、命がけで日本語を学ぶ理由とは何なのか。その答えのいくつかがこの本に書かれています。

日本語学習の目的は、国際交流基金の調査結果では「日本語そのものへの興味」が第1位で、「日本のアニメ・マンガへの興味」「就職に有利」等が続きます。

一方で、海外で日本語を学ぶ一人一人に目を向けると、私たちの想像を超えたストーリーも存在します。この本には、「平和」「復興」という表現が、印象的なタイミングで使用されています。日本のアニメや漫画に関する話題も含まれていますが、数値だけではわからない、様々な日本語学習者の葛藤や思いを知るきっかけになる本として、また、シリアで日本語を学んできた人たちが日本語で綴った思いを直接読む体験ができる本として、この本を推薦いたします。

海外で日本語を教える教師を目指す人も、目指さない人も、「平和のための日本語教育」について興味があったら、ぜひ手にとっていただきたい1冊です。

# 北海道150年の理解を深めよう！

## 『アイヌからみた北海道150年』

石原 真衣（編著）

出版社：北海道大学出版会／出版年：2021年／ISBN：9784832934054

推薦者　川前 あゆみ　釧路校　地域学校教育実践専攻 学校教育実践分野

近年、アイヌ文化、アイヌ民族に関する著作物がより多く出版されるようになりました。

本書は、最近までの「北海道150年」に関する様々な取組や最近まで刊行された著作物にアイヌに関する記述が少ないことを危惧されています。共生社会を考える上でもとても重要な視点です。

皆さん自身が、改めてアイヌ文化やアイヌ民族に関する学びについて、当事者の目線を通して学び直しましょう。どのような新たな学びの視点が得られるでしょうか。また、授業研究においても、社会科や道徳に限らない教科の枠を超えて、地域文化の理解を深め、よりよい共生社会を目指した教材研究のきっかけを与えてくれる文献となるでしょう。

ぜひ、学生の皆さん、手に取って読んでみてください。

# ミクロ経済学を楽しく深く学べる

## 『ミクロ経済学
## ―戦略的アプローチ』

梶井 厚志、松井 彰彦（著）

出版社：日本評論社／出版年：2000年／ISBN：9784535552029

推薦者　**福原 崇之**　岩見沢校　芸術・スポーツビジネス専攻

本書は、ゲーム理論を使ってミクロ経済分析を行っています。こう書くとなにか難しそうですが、本書では、ある町のパン屋さんを中心に、さまざまな物語が語られ、読んでいくうちに「囚人のジレンマ」や「チキンゲーム」などの有名なモデルやオークション理論、クールノー型複占モデル、製品差別化など重要なミクロ経済学の概念を学ぶことができます。

それぞれの概念について、数学的な説明も丁寧にされており、読者が手を動かして計算しながら理論を理解することも可能ですし、章末の問題を解くことによってさらに理解を深めることができます。

# ゲーム理論のエッセンスを学べる書

## 『16歳からの はじめてのゲーム理論 ―“世の中の意思決定”を解き明かす6.5個の物語』

鎌田 雄一郎（著）

出版社：ダイヤモンド社／出版年：2020年／ISBN：9784478110713

推薦者　**福原 崇之**　岩見沢校　芸術・スポーツビジネス専攻

現在のミクロ経済学の教科書には必ずと言っていいほど1章(もしくはそれ以上)を割いて書かれている「ゲーム理論」。ミクロ経済学の重要理論の一つと言っていいでしょう。このゲーム理論の考え方を、ネズミの親子と彼らが居候しているいくつかの家庭のストーリーを読んでやさしく学ぶことができるのが本書です。

ゲーム理論は、「相手の出方を考慮に入れたうえで、自分の行動（戦略）を選択する」状況を分析する学問ですが、本書では様々な状況が読者に提供され、読み終わるころには「ゲーム理論が、社会に対してどのようなアプローチをする学問なのか」理解することができます。

しかも数式を一つも用いていませんので、数学が苦手な方でもすらすら読めてしまいます。

# 絵本です。

## 『ランカ
## ―にほんにやってきたおんなのこ』

野呂 きくえ（作）　松成 真理子（絵）

出版社：偕成社／出版年：2020年／
ISBN：9784034351505

推薦者　伊藤 美紀　函館校　地域協働専攻 国際協働グループ

とおい国から日本にきた10歳の女の子「ランカ」が、日本の小学校で、周りの人が何を言っているのか全然わからないシーンから、この絵本は始まります。

この絵本は、ランカが日本語を勉強し、最後に日本語が上手になるというお話ではありません。しかし、この絵本の後半では、ランカが、ランカを気にかけてくれる日本の子どもたちとの心の交流をとおして、泣いたり笑ったりします。

日本語教師は、このような不思議な、そして感動的なシーンに立ち会うこともある仕事です。

日本語を第一言語としない人への日本語支援に興味がある人は、ぜひこの絵本で、日本に来たばかりの子どもたちや、まわりにいる日本の子どもたちが感じていることを疑似体験してみていただければと思います。

# 「識字教室」ー 他館から借りてでも読む価値のある本

## 『歩 ― 識字を求め、部落差別と闘いつづける』

山本 栄子（著）

出版社：京都部落問題研究資料センター／出版年：2012年／
ISBN：9784759244144

推薦者　菅 正彦　札幌校　理数教育専攻　理科教育分野

子どもの時に文字を修得できなかった理由はいろいろあるでしょうが、この書籍ではその理由として「部落差別」に焦点を当てています。北海道で生活していると「部落差別」を見聞きすることはほとんどありません。しかし「部落」ではなく別の「差別」によって文字の読み書きができない人と会う可能性はあります。「はじめに」で81歳の著者が書いている「祖父母の教育のないことで定職にもつけずに来たことは、子どもの教育にも関与している。」は、まさに現代にも通じることと思います。小学校を出てすぐに働き出し、しかし文字の読み書きができないために定職につけず、識字教室に通って文字を覚え、資格を取って43歳で定職に着き、60歳で定年退職後、夜間中学、定時制高校、そして大学二部に入学した著者の人生は、教員養成課程の学生・職員・教員として教わるものが多いと思います。

残念ながらこの書籍は2012年の出版ながら、現在では新品はおろか中古でも入手が困難です。しかし本学附属図書館のCiNii Books[他大学所蔵] で検索すると、北海道内をはじめ、国内のいくつかの大学で所蔵されています。他館から借りてでも読む価値があると思います。なお同著者らによる「いま、部落問題を語る―あらたな出会いを求めて、生活書院、2019」も一読をおすすめします。

# 生活保護って何？
# 日本国憲法第25条に真正面から向き合う、生活保護のケースワーカー奮闘劇！

（第1巻帯より）

## 『健康で文化的な最低限度の生活』

（1~10巻　※以下続刊）

柏木 ハルコ（著）

出版社：小学館／出版年：2014年～／
ISBN：［第1巻］9784091863577

推薦者　木戸口 正宏　釧路校　地域学校教育実践専攻 発達教育実践分野

「健康で文化的な最低限度の生活」は、国民の生存権と国家による生活保障義務を規定した日本国憲法第25条に記された文言です。その「国家による生活保障」の最前線で働く生活福祉事務所の新人ケースワーカー、「義経えみる」が、この物語の主人公です。

えみるの目を通して、私たちは、現代の社会に存在する貧困・社会的困窮のさまざまな姿ー子どもの貧困、アルコール依存、多重債務などーと出会うことになります。それと同時にそうした人々のそばに立ち、彼ら・彼女たちの生活の再建を支えようとする多様な人々の姿をも目にすることでしょう。

えみる自身もまた、右も左も分からないまったくの新人から、さまざまな事情や困難を抱えて生活福祉事務所に来る人々と出会い、一緒に悩み、制度や社会現実の壁にぶつかり、それでも問題を解決するために右往左往、試行錯誤する中で、変化・成長していきます。その意味では、これはえみる（や一緒に働く同期の職員たち）の、職業人としての成長の物語でもあります。

最新刊では、生活困窮者を囲い込み、生活保護やさまざまな補助金の申請をさせながら、それらを「寮費」「食費」などの形で不法に奪い取る「貧困ビジネス」の実態に迫るとともに、コロナ禍での人々の困難な暮らしや、生活保護行政の課題にもスポットを当てています。「楽しい」ばかりの話ではありませんが、ぜひ読んでみてほしいと思います。

# 「自分は誰？」という問いに応える「記録」

## 『私の記録、家族の記憶
## ―ケアリーヴァーと社会的養護のこれから』

阿久津 美紀（著）

出版社：大空社出版／出版年：2021年／ISBN：9784908926204

推薦者　二井 仁美　旭川校　教育発達専攻 教育学分野

実の親ではなく、児童福祉施設や里親家庭など、社会的養育によって育てられる子どもは、日本では約４万５千人います。この本は、そのような子どもの「記録」とその管理システムについて、アーカイブズ学の視点から論じています。

アーカイブズ学は、「記録」の管理や保存、利用について研究する学問です。本書は、「私の記録、家族の記憶」というタイトルが示すように、家族との死別や虐待など、さまざまな事情で家族と離れて社会的養育によって育った当事者（ケアリーヴァー）の「記録」について扱っています。「自分は誰？」「なぜ実親と生活ができなかったの？」という問いは、社会的養育に育った多くの人が抱く思いです。そのような思いや問いに応えるためにも「記録」や情報が不可欠です。また、ケアリーヴァーが、自分自身の「記録」にアクセスすることは、アイデンティティを確立し、自身の人生を歩む助けとなります。しかし、日本では、社会的養育に関する「記録」にアクセスすることが難しいという現実があります。

本書は、イギリスやオーストラリアにおける児童虐待調査と「記録」の歴史、「記録」が児童虐待の抑止力になることに関する論究、韓国の養子縁組における記録管理政策等、海外の事例も紹介しつつ、日本の社会的養護に関する記録管理の課題と、当事者たちが「記録」にアクセスするための支援の方法などを丁寧に論じています。

表紙の絵は佐藤仁美先生の作品です。

# 福祉施設や特別支援学校へ介護等体験実習に行く人におすすめの1冊

## 『重い障害を生きるということ』

高谷 清（著）

出版社：岩波書店（岩波新書）／出版年：2011年／ISBN：9784004313359

推薦者　千賀 愛　札幌校　特別支援教育専攻 特別支援教育分野

言葉がうまく出てこない、体が動かせなくて意思表示が難しい重度の障害をもって生きている人は、周囲の人々や環境の変化をどのように感じ取っているのか、疑問に思ったことはありませんか？

著者は重症心身障害児施設に長年勤務し、滋賀県のびわこ学園(社会福祉法人)の医師として多くの重度心身障害者と関わってきました。本書では重たい障害があっても人間的な心があり、快適な環境には安心感をもち、周囲の看護師や職員、親の存在を感じ取っていることが分かるエピソードが書かれています。

この本を読んでから介護等体験の実習に行くと、施設利用者や特別支援学校の児童生徒への見方が変わり、表面的な障害の理解ではなく、本人が何を感じ取っているのかに関心が向き、当事者の側から周囲を理解するための第一歩を踏み出すことができるかもしれません。

# 「優等生」にも支援が必要な理由

## 『ひきこもる心理とじこもる理由
## ―自立社会の落とし穴』

高塚 雄介（著）

出版社：学陽書房／出版年：2002年／ISBN：9784313860063

推薦者　齋藤 暢一朗　大学院（札幌）　学校臨床心理専攻

著者の高塚先生は、長年、学生相談に携わり青年期のこころに寄り添った支援をされてこられた先生です。この本のなかで先生は、現代社会がひきこもる若者の心理構造をよく映し出していることを鋭く観察し、考察されています。皆さんがひきこもる人について抱く印象はどのようなものでしょうか。大人しくて、引っ込み思案な人物像を想像する方も少なくないと思います。しかし、ひきこもる人の多くは、小中学校時代はむしろ優等生で、ときにリーダシップを発揮するなど、学校や家庭で大人を困らせるようなことは少ない優等生なのです。本書にはそうした優等生が青年期以降にひきこもってしまう理由が書かれています。学校内の生活指導や教育相談に名前があがらない優等生の彼らのこころ模様を想像し、緊張をほぐしてあげることができる身近な存在は学校の先生です。将来、小学校や中学校の教壇に立つことの多い皆さんにも読んでいただきたい一冊です。

# よく聞くいじめ問題の話。その「わかりやすさ」にとらわれていませんか？

## 『囚われのいじめ問題 ―未完の大津市中学生自殺事件』

北澤毅、間山広朗（編）

出版社：岩波書店／出版年：2021年／ISBN：9784000614887

推薦者　稲葉 浩一　大学院（旭川）　高度教職実践専攻

教育大生なら「大津市中学生自殺事件」を聞いたことがあると思います。本件は10年前に生起し、その事件から半年以上経った後に突然「自殺の練習がされていたというアンケート結果を教育委員会が公表していなかった」とメディアで取り上げられ、毎日のように過熱的な報道が繰り返された事件です。これによりいじめ防止対策推進法や道徳の教科化が成立するなど、本件は社会に極めて大きなインパクトをもたらしました。みなさんも授業で本件の名前を聞いたことがある人は多いかと思います。

しかしながら偶然本件が社会問題化する前から調査をしていた本書の研究チームは、この報道や社会の動きに強い違和感や疑問を抱きます。推薦者であり執筆者でもある私もその中のひとりです。本書は、この違和感や疑問をもとに、第三者委員会報告書、地裁・高裁判決文、あらゆる関係者へのインタビューを繰り返し、メディアや世間一般で語られているそれとはずいぶん異なった本件の姿を描き出します。そのうえで、私たち社会が定型化された「いじめ問題」に囚われてしまっていることの問題点を鋭く指摘します。

単なる教員採用試験対策のためではなく、「覚えるべき答え」を覚えるためでもなく、この社会にとって、教師にとって、子どもたちにとって、「いじめ」とは何なのか？そのこと自体を考えるために本書をお勧めします。

# 世界の学校から
# 日本の教育を俯瞰しよう！

## 『世界のしんどい学校
### ―東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み
### （シリーズ・学力格差 4　国際編）』

志水 宏吉（監修）

出版社：明石書店／出版年：2019年／ISBN：9784750348803

推薦者　川前 あゆみ　釧路校　地域学校教育実践専攻 学校教育実践分野

本書は、世界各国の教育事情と学力の是正政策について明らかにしています。さらに、日本と対比して頑張っている各国の「しんどい学校」も取り上げています。世界の教育を垣間見る、本書を通読してみることで、実は日本の教育の緻密な年間指導計画の基に児童生徒理解を追求しようとする教育制度の素晴らしさや教師の頑張り理解を深めることも可能です。

教育実習を経験すると自分の至らなさを痛感することも多分にあるかと思いますが、日本の教師の魅力に改めて気づき、学校教育の新たな発見がありそうです。

小学校・中学校・高等学校と学校種を超えて、学校の魅力を改めて俯瞰する著書であり、ご自身の教育者としての課題、新たな視点を学ぶことが可能です。

ぜひ、一度、読破することをお薦めします。

# 学校はどこから来たか。
# その歴史と課題。

## 『学校の戦後史』

木村 元（著）

出版社：岩波書店（岩波新書）／出版年：2015年／
ISBN：9784004315360

推薦者 **稲井 智義**　旭川校　教育発達専攻 幼児教育分野

近代学校の原型をつくった西洋の歴史もふまえて、第二次世界大戦をはさむ近現代日本の学校の歴史を描く。戦後70年に刊行された。一冊の新書で数多くの研究を参照しながら、学校の歴史を示した。学校は社会の変化をどう受け止めたか、どのように社会の変化に応答しようとしたか。多くの人々はなぜ学校に、幼稚園や高等学校のような義務教育ではない学校にも通うようになったか。学校に通えなかったのは誰か。学校をめぐる論点が歴史に沿って整理される。折にふれて読み返したときに、自分の問題関心の深まりにも気づくであろう。

著者の共著『教育学をつかむ 改訂版』（有斐閣、2019年）は教育学の問題集。編著『境界線の学校史一戦後日本の学校化社会の周縁と周辺一』（東京大学出版会、2020年）では夜間中学、朝鮮学校、道徳教育、生活指導、技術・職業教育などに注目して「学校と学校ではないもの」がどのように線引きされてきたかを検討した。この編著の執筆者の神代健彦は『「生存競争」教育への反抗』（集英社新書、2020年）で教育史や社会学、哲学を駆使して学校と社会の状況を整理して、世界に出会う場としての学校の役割を提案した。

# 公立学校の「格差」を考える！

## 『二極化する学校
## ―公立校の「格差」に向き合う』

志水 宏吉（著）

出版社：亜紀書房／出版年：2021年／ISBN：9784750517087

推薦者　川前 あゆみ　釧路校　地域学校教育実践専攻 学校教育実践分野

本書は、現代社会を象徴するキーワードとして多用される「格差」について、教育の場面を切り口に公立学校のあり方を多面的に問うた内容を有しています。皆さんは、これから教師を目指すうえで、全国各地の地域の公立学校と出会うことになります。「格差」をキーワードにした教育の二極化、学校の二極化について本書から多角的な視点でとらえてみてください。公立学校が実際に置かれている「格差」はご自分が想像する以上に困難な事象があるかもしれません。学校段階に応じた児童生徒理解も必要です。発達段階に応じた支援について、皆さんは何を提案しますか。あなたはどんな教師を目指しますか？

著者は、教育社会学の研究分野では第一人者であり、読者に「人間がつくり出す社会のひずみは、やはり人間力の力で是正していくほかはないのである。」と教員を目指す学生の皆さんにも熱いメッセージを送っています。

# デジタル時代の教育
# ＝デジタル・シティズンシップ教育を知り、実践するために

## 『デジタル・シティズンシップ
### ―コンピュータ１人１台時代の善き使い手をめざす学び』

坂本 旬、芳賀 高洋、豊福 晋平、
今度 珠美、林 一真（著）

出版社：大月書店／出版年：2020年／ISBN：9784272412594

推薦者　池田 考司　札幌校　言語・社会教育専攻 社会科教育分野

小学校から高校まで　「情報モラル」教育を受け、大人から「ネット世界の危険性」を言われてきたみんなが教師になるこれからは、デジタル機器は「学校・教室が世界とつながり、社会をみんなでつくっていくための大切なツール」に変わっていきます。

世界では、「デジタル・シティズンシップ」という、人びとが相互につながったデジタル世界における生活、学習、仕事の権利と責任、機会を理解し、行動できるようになることを実現するための教育が推奨・実践されています。

デジタル・ネイティブのみんなが、コンピュータ児童生徒1人1台時代の教師になる前に、ぜひ読んでみてほしい一冊です。

「デジタル・シティズンシップ」とは何か、どんな教育が始まっているのか、読んでみてください。

# 算数・数学とそれを学ぶ
# 子どもたちへの愛情あふれる一冊

## 『算数が大好きになる事典』

上野 富美夫（著）

出版社：東京堂出版／出版年：1999年／ISBN：9784490105247

推薦者　樺沢 公一　旭川校　数学教育専攻

中学校で学級担任をしていた13年間、ずっと学級文庫に置いていた一冊です。「小学校のときにこの本を読んで算数が大好きになったんですよ！」と話しにきてくれた子も数名いました。算数・数学と子どもたちへの愛情にあふれるあたたかい眼差しで書かれた本で、神保町の老舗「東京堂出版」から出された、格調の高い信頼できる一冊です。

目次を読んでいるだけでも楽しく、一つのテーマを2～3ページで物語る語り口や話の組み立てから、教育大生のみなさんは、多くを学びとることができるでしょう。特筆すべきは、本書で一貫されている子ども目線で語るという姿勢（スタイル）です。こういった類の本は、これでもかと言わんばかりに話題や知識を並べ立てるものが多いのですが、本書は、幅広い話題について、選りすぐりの題材で、そしてそれをかみ砕き子どもが考える姿として語ります。これを読んだ子どもは、自然と学び方も身に着くことが期待できます。

この推薦文を書くまで読んでいなかった「まえがき」と「はじめに」を読み、著者の思いに胸がいっぱいになりました。どこからでも読めて、大人が読んでも純粋に楽しむことができます。ぜひ、一人でも多くの人に手に取っていただきたい一冊です。

※同じ著者の本が他にも数冊あります。特に「数の話題事典」はおすすめです！

# 幼児教育は社会との関連のなかでどのようにつくられてきたか。

## 『MINERVA はじめて学ぶ教職 幼児教育』

小玉 亮子（編著）

出版社：ミネルヴァ書房／出版年：2020年／ISBN：9784623088591

推薦者 稲井 智義　旭川校　教育発達専攻 幼児教育分野

社会学の観点から書かれた幼児教育の教科書。はじめに幼児教育者の仕事を、盲ろう者ヘレン・ケラーの家庭教師アン・サリヴァンを描いた作品『ミラクル・ワーカー』からとらえなおす。西洋と日本の歴史、教育と福祉の制度、諸外国の幼児教育、教育課程、発達をめぐる論争、グローバル化も扱われる。教職科目を幼児教育の視点から考えなおすこともできる。最後の章「幼児教育の課題と展望」では、イタリアのレッジョ・エミリアに注目して、一人ひとり異なる子どもを市民としてとらえる幼児教育への筋道も提案される。参考文献と読書案内も充実。

同じ編者の『幼小接続期の家族・園・学校』（東洋館出版社、2017年）は、家族と小学校、幼稚園、保育所、認定こども園の結びつきをとらえなおす。幼稚園と小学校の教師、保護者もコラムを寄せた。小玉氏も寄稿した特集「保育の質を超えて」（『発達』162号、2020年）では、レッジョ・エミリアの意義とそこから触発された実践と思想が論じられる。木村涼子・小玉亮子『教育／家族をジェンダーで語れば』（白澤社、2005年）は身近な事例や物語を題材にした教育学と社会学の入門書である。

# 障害や貧困・不登校を含めて「すべての子ども」が学べる小学校のヒント

## 『「みんなの学校」が教えてくれたこと ―学び合いと育ち合いを見届けた3290日』

木村 泰子（著）

出版社：小学館／出版年：2015年／ISBN：9784098401635

推薦者　千賀 愛　札幌校 特別支援教育専攻 特別支援教育分野

大阪市の公立小学校「大空小学校」の元校長で著者の木村泰子氏が、様々な困難や「しんどさ」を抱えた子どもたちが一緒に学べる学校づくりに奮闘した実践的な内容を書いています。すべての子どもが居場所としての学校で学び、教師も子どもも自分から学ぶ姿勢を保つには、どのような学校づくり、集団づくりが必要なのでしょうか。

2021年9月に著者の木村先生とZoomによるシンポジウムでお話しする機会がありました。大空小学校では、特別支援学級がありますが、子どもは通常学級の授業にも参加して、通常学級と支援学級の教師が何度も話し合い、一緒に学校づくりに取り組んでいたそうです。

人間は誰でも失敗するものです。教師や子どもが、自分から失敗に気づき、やり直しができる学校、暖かく見守ってくれる仲間や教師がいる学校の様子が生き生きと書かれています。子ども同士の関係づくり、保護者と学校の相互理解など、教育実習や学校ボランティアの参加を通して関心を持った人は、ぜひ読んでみてください。学校づくりの正解は一つではありませんが、継続的に取り組んだ実践から学べることは多いと思います。

# 学校のあり方と教師の役割。

## 『「みんなの学校」をつくるために
## ―特別支援教育を問い直す』

木村 泰子、小国 喜弘（著）

出版社：小学館／出版年：2019年／ISBN：9784098401970

推薦者　稲井 智義　旭川校　教育発達専攻 幼児教育分野

ドキュメンタリー『みんなの学校』（2015年）の舞台である大阪市立大空小学校の初代校長と教育学者が主催したワークショップ記録。「みんなの学校」を実現するために何を考え実践すべきかを学生と現職教員が探究した。障害学・社会学を専門とする星加良治、特別支援学校教諭の川上康則、北海道浦河町の「べてるの家」を支える精神科医の川村敏明、元文部科学事務次官の前川喜平の講義も収録。特別支援教育を学ぶだけでなく、学校のあり方や教師の役割についても深く考える。

ドキュメンタリーの一部は、木村泰子『「みんなの学校」が教えてくれたこと』（小学館、2015年）で読める。近著では、同『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』（青春出版社、2020年）を薦める。教育学や教師について学びたい人には、小国氏が日本の教師の歴史を示した秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣、2015年）、木村・小国両氏が「学校改革の可能性と問題点」を論じた油布佐和子編『教育と社会』（学文社、2021年、山崎準二・高野和子編集代表「未来の教育を創る教職教養指針」4）がある。以上の著作は、教師になることに悩む人を応援してくれるであろう。

# 日本人はどのように生きてきたのか。現代に生きる私たちが振り返るための書

## 『忘れられた日本人』

宮本 常一（著）

出版社：岩波書店（岩波文庫）／出版年：1984年／
ISBN：9784003316412

推薦者　村田 敦郎　函館校　地域協働専攻 国際協働グループ

日本文化の悪習として挙げられる忖度や同調圧力がある。本書ではそれらの原点ともいえる村落の生活文化の記録がつぶさに語られる。しかし民俗学者・宮本常一の筆にかかると、村での忖度や同調圧力は人々の包容力や人間関係の奥深さとして描写され、単なる悪習ではなくなってしまう。つまり、忖度や同調圧力とはそのような良い部分が補完されてこそ、人々にとって有益になることを教えてくれる。本書には、今の日本人に「忘れられた」ものがたくさん詰まっている。

二つほどお薦めの章を紹介する。被抑圧者のイメージで描かれることが多かった農村の女性だが、宮本は当の女性たちから「女性の一人旅」の話や女同士の奔放な「エロ話」などを聞き出す。農村女性の負のイメージを覆した名作「女の世間」。

世間（村）では人並の仕事とみなされなかったばくろう（牛飼い）をしていた盲目の老人の一代記「土佐源氏」。主人公は行く先々の村で女性に手を付けては逃げ出すを繰り返す－現代の倫理ではろくでもない一人物だが、彼の物語を読み終えると不思議とさわやかな読後感にとらわれる。それは日本文化における個人の生きる苦しみと欲望、社会の残酷さと懐の深さがこの短い一編に凝縮されているからだろう。

本書のそれぞれの章は独立しているので、どの章から読み始めてもよく、日本民俗学の入門書として好著ともなっている。

# “ゴールデンカムイ”に学ぼう！

## 『ゴールデンカムイ』

（1~28巻　※以下続刊）

野田 サトル（著）

出版社：集英社／出版年：2015年~／ISBN：［第1巻］9784088900827

©野田サトル／集英社

推薦者　川前 あゆみ　釧路校　地域学校教育実践専攻 学校教育実践分野

コミックシリーズ『ゴールデンカムイ』は皆さんもご存じでしょうか。この『ゴールデンカムイ』シリーズは、フィクションストーリーでありながらも想像力をもって読み進めることができるコミック本として推薦します。

特に、北海道内の博物館や地域資料館等では、その博物館等で勤務されている職員の方々が『ゴールデンカムイ』を紹介するコーナーを設けているところもあります。また、観光施設等にも『ゴールデンカムイ』を紹介している地域もあります。

北海道で学生生活を送る皆さんには、『ゴールデンカムイ』から授業での教材研究や北海道の地域特性、歴史を改めてとらえ直し、新たな学びにつながる学習活動に活かしていただきたいです。

# 知識は認識論的障害をのりこえて勝ちとられる

## 『科学的精神の形成
## ―対象認識の精神分析のために』

ガストン・バシュラール（著）　及川 馥（訳）

出版社：平凡社（平凡社ライブラリー）／出版年：2012年／
ISBN：9784582767605

推薦者　大滝 孝治　釧路校　地域学校教育実践専攻 数学教育実践分野

みなさんは「疑似科学」や「トンデモ理論」といった言葉にどこかで出会ったことがあるかと思います。それらはきちんとした科学の知識に基づかない荒唐無稽な言説のことを指します。本書では17-18世紀のトンデモ科学がたくさん紹介されます。例えば、電気現象が解明される前には、静電気が物を引きつける特性から「電気は糊（のり）の一種」とみなされたり、無機物の研究が進む前には、植物とのアナロジーで「鉱山に屑鉄をまけば鉄がなる」と信じられたりしました。こうした主張をみると次のように感じられるでしょう。「昔の人はずいぶんと奇妙なこと考えたのだな。まぁ私はもっと“まとも”だけどね」と。しかし、そうではありません。トンデモ理論は日々の生活や教育によって育まれた「常識」によって生み出される、ということを本書は明らかにします。ここでは細かく説明することができませんが、電気糊理論は実体論、鉄栽培理論はアニミズムという「誰でも持っている」思考の態度・枠組みに支えられています。「誤りは無知ではなく知識によって引き起こされる」、教師はこの事実をよくよく噛みしめておくべきだと私は思います。

# 「リケジョ」という言葉が使われなくなる日が来ることを願って

## 『理系の扉を開いた日本の女性たち ―ゆかりの地を訪ねて』

西條 敏美（著）

出版社：新泉社／出版年：2009年／ISBN：9784787709066

推薦者　菅 正彦　札幌校　理数教育専攻 理科教育分野

「理系女子」や「リケジョ」という言葉が使われ始めてだいぶ経ちました。朝日新聞には2021年ー2022年、「『リケジョ』がなくなる日」という連載が掲載されました。しかしいまだに「理系」の「女性」を取り巻く情勢は厳しいように思われます。

この書籍では当時は認められていなかった女性の大学入学や医師免許状取得など、特に理系の女性に焦点を当て、女性であることのための困難に直面しながら活躍した女性25名の生誕の地やゆかりの地を実際に訪れ、その人物と業績を紹介しています。25名の中には北海道とゆかりのある医師の荻野吟子（公許女医登録第一号、瀬棚町で開業）や数学者の桂田芳枝（数学で日本初の女性理学博士、北海道大学教授）なども取り上げられています。

皆さんが教壇に立った際に教える小学生や中学生などが大人になった時には、「理系」の「女子」が当たり前の存在になり、「理系女子」や「リケジョ」という言葉が使われなくなっていると良いと思いながら、先人の苦労に思いを馳せました。

# 数論の世界への興味を掻き立てる珠玉の一冊

## 『ゼロから無限へ
## ―数論の世界を訪ねて』

コンスタンス・レイド（著）

出版社：講談社（ブルーバックス）／出版年：1971年／
ISBN：9784061177772

推薦者　樺沢 公一　旭川校　数学教育専攻

「もっと早くこの本に出合っていたら…と思う本はありますか」と問われたら、真っ先にうかぶのがこの本です。一般の人々向けに書かれた本ではありますが、数の世界の魅力が、学問的な世界観で、様々なエピソードと共に語られています。

各章がその数字に関する話題になっており、例えば第6章は、最小の完全数6の話題からはじまっています。数や数式、記号も少しだけ出てきますが、数や式の表現そのものが数論の世界の美しさを伝えるためのものであることもわかってきます。

特に素数に関する部分は秀逸で、「人を傷つけるためのどんな計画に費やされた時間よりも、素数の問題を考えるために費やされた時間の方がはるかに多いのではないだろうか」という言葉には、胸が熱くなります。どの章から読んでもよく、特に後ろの無限に関するお話は、数学科に入ったころに読んでいたかったと心底思う内容です。

著者のレイド氏は、数学者ではなく、主婦でフリーのジャーナリストで、数学者の伝記も書かれています。旭川、札幌、釧路の図書館にある「数学人群像」という図鑑のような本に著者の顔写真が出ていて、何と当時の一流の数学者たちと肩を並べてインタビューされています。著者の数学啓蒙の業績がいかに偉大であったかを物語っています。

# 視聴率はどこまで信頼できるか？ テストの偏差値は どうやって計算するのか？

## 『やさしい統計入門 ―視聴率調査から多変量解析まで』

田栗 正章、藤越 康祝、柳井 晴夫、ラオ, C. R.（著）

出版社：講談社（ブルーバックス）／出版年：2008年／
ISBN：9784062575577

推薦者　**種市 信裕**　札幌校　理数教育専攻 算数・数学教育分野

視聴率はどこまで信頼できるか？　テストの偏差値はどうやって計算するのか？何人に出口調査すれば「当落予測」できるのか？　子供の身長を両親から予測できるか？　等々の数多くの身近な疑問から統計学の考え方を理解することを目的として書かれています。

啓蒙書であるのに中身も手を抜いていない本です。しかも著者が著名な研究者ぞろいというのが驚きです。きちんと読めば統計学についての正しい知識を数多く吸収できると思います。日本統計学会75周年記念推薦図書でもあります。

# 虫好きな人も、そうでない人も、昆虫の行動や姿に思わず、へぇーっと感心する本

## 『昆虫はすごい』

丸山 宗利（著）

出版社：光文社（光文社新書）／出版年：2014年／
ISBN：9784334038137

推薦者　**髙久 元**　札幌校　理数教育専攻 理科教育分野

アリやシロアリの巣内に共生する様々な昆虫の多様性解明がご専門の丸山先生。昆虫学の専門書だけでなく、図鑑の編著にも関わっていて、本書でもその博識ぶりが発揮されています。第1章の昆虫の多様性や形態の話では基礎的な知識を得ることができます。例えば、現在知られている昆虫の種数は100万種を超え、日本でも3万種を超えること、ある熱帯地域のアリだけの生物量（その地域の全個体を集めた重さ）が陸上の脊椎動物(両生類、爬虫類、哺乳類など）の生物量をはるかに超えること、「飛ぶこと」「変態すること」が昆虫の多様性を進化させたことなどなど。第２章以降は、ご専門のアリやアリの巣内の共生者だけでなく、様々な昆虫の驚くべき姿・形、行動などが紹介されています。例えば、狩りバチは、自分の子どもに、日持ちする餌を与えるために、餌となる昆虫やクモに麻酔をして仮死状態にして鮮度を保ったまま保存します。植物の葉を食べるハムシやテントウムシの中には、植物が出す防御物質（毒や苦味など）を避けるために、葉に丸く傷をつけて、その傷で防御物質をせき止めてから、その内側を食べ始めます。小中学生に昆虫のことを教える前に、読んでみてはいかがでしょうか。

# モンシロチョウの気持ちに寄り添って、結婚相手の見つけ方を探求してみよう

## 『モンシロチョウ ―キャベツ畑の動物行動学』

小原 嘉明（著）

出版社：中央公論新社（中公新書）／出版年：2003年／
ISBN：9784121016898

推薦者　木村 賢一　札幌校　理数教育専攻 理科教育分野

野原をひらひらと飛ぶモンシロチョウ。ただ飛んでいるだけではない。オスはメスを、メスはオスをと、それぞれ交尾相手を探して、次の世代を残さなければならない。

この本は、著者が大学の卒業研究時代に抱いた「モンシロチョウがどのようにして結婚相手を見つけるのか」という素朴な疑問に対して、動物行動学の研究者として、その謎を追いかけた探求の過程をわかりやすくまとめたものです。仮説をたて、それを実証するための実験方法を考え、必要な実験器具を自作し、実験してみる。仮説どおりの場合もあれば、そうじゃない場合もある。それならば新たな仮説をたて、また実験する。それら実験を通して明らかになったことから、さらに新たな疑問が生まれ、またその疑問を解き明かす。こういった自然科学（理科）の探求の過程を体験しながら、まるで著者と一緒に実験をしている気分にさせてくれる本です。結果だけ書かれている教科書からは味わえない、生物学のおもしろさを味わってみませんか。

# 実は鳥をこよなく愛していることが伝わる鳥類学者の自然科学エッセイ

## 『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。』

川上 和人（著）

出版社：新潮社／出版年：2017年／ISBN：9784103509110

推薦者　髙久 元　札幌校　理数教育専攻 理科教育分野

バイクと鳥の骨格標本を愛し、小笠原や南硫黄島、西之島など南海の孤島で鳥を追い、かと思うと文房具屋めぐりを好むインドア派な一面もある、ちょっと変わった鳥類学者による、自然科学エッセイである。著者は歴とした鳥類学者であり、優れた業績をあげている研究者であるが、随筆家のような読む者を引き込ませる饒舌な文体で、フィールドワークの面白さ、大変さを伝え、鳥類学、分類学、進化学等の知識を注入してくれる。私も動物の分類学者だが、著者に共感できる部分がたくさんある。特に好きな一節は以下の標本に関するくだりだ。

「標本とは、生物学における辞書である。辞書は、網羅的に語彙が羅列されているからこそ意味がある。（中略）網羅性こそが標本収集の真骨頂と言えよう。中には一度も利用されずに標本箱に安置されたまま永遠の時を過ごす標本もあるが、それがそこにあることが大切なのだ。」

なお、著者の業績ではないが、本書にも掲載されている鳥の学名（生物の世界共通の名前）の面白さは雑学として知っていて損はない。日本に飛来することもあるアカアシカツオドリの学名はスラ・スラ、日本でも繁殖するカササギの学名はピカ・ピカである。

# 震災の1日前で良いから読みたかった

## 『心の傷を癒すということ
## ―大災害と心のケア（新増補版）』

安 克昌（著）

出版社：作品社／出版年：2020年／ISBN：9784861827853

推薦者　浅井 継悟　釧路校　地域学校教育実践専攻 発達教育実践分野

大学院生の頃、宮城県に住んでおり東日本大震災の心理支援に関わりました。右も左もわからないまま、本当にこれが支援になっているのか自問自答しながらの支援でした。今でも正解がわかりません。数年後にこの本に出会って、最初に思った感想が「震災の1日前で良いから読みたかった」でした。それだけ、支援される側、支援する側、社会状況など、東日本大震災で経験したあらゆることがこの本に書かれていました。

この本は精神科医の視点から阪神淡路大震災について書かれた本です。学校とは関係がなさそうに思えます。ですが、大規模な災害が起きれば、学校が避難所になります。場合によっては避難所の運営を教員が担います。避難所内で、あるいは学級で「地震ごっこ」のようなの子どものたちのストレス反応を目にするかもしれません。あなただったら、どう関わりますか？そんな視点も持って、ぜひ読んでみてください。

教員になる人も、ならない人も、全ての学生に読んで欲しい1冊です。

# いま何が起こっているのか

## 『感染症と文明—共生への道』

山本 太郎（著）

出版社：岩波書店（岩波新書）／出版年：2011年／
ISBN：9784004313144

推薦者　**後藤 俊一**　札幌校　理数教育専攻 算数・数学教育分野

感染症の世界的な流行は今回が初めてではありません。ペストの流行は大学生の頃に読んだ 村上陽一郎 著「ペスト大流行」（岩波書店）で中世ヨーロッパの事件だと勝手に思い込んでいましたが、歴史はもっと古く、またその後も流行を繰り返して明治の頃には日本にもやってきたそうです。

本書は天然痘や麻疹なども取り上げ、どのようなメカニズムで感染が伝播したのかを丁寧に解き明かしてくれます。付録に麻疹流行の数理モデルが簡単に解説されていますから、基本的な知識として知っておきましょう。もう少し詳しく知りたい人は、さらに 黒木登志夫 著「新型コロナの科学」（中央公論新社）を読んでみるといいかもしれません。

# 教室の中には、色覚のタイプの異なる生徒がいるかも知れません

## 『色弱の子どもがわかる本
### ―家庭・保育園・学校でできるサポート術（増補改訂版）』

カラーユニバーサルデザイン機構（原案）
福井 若恵（コミック）　岡部 正隆（監修）

出版社：かもがわ出版／出版年：2020年／ISBN：9784780310986

推薦者　木村 賢一　札幌校　理数教育専攻 理科教育分野

「この色とこの色、どちらが正しいでしょうか。」教師が発するこんな質問を学校の教室で聞いたことがありませんか。答がわかっているのに色が区別できなくて答えられない、そんな子どもたちが教室の中にいるかも知れません。日本人の男子のおよそ20人にひとりは、他の人と色の見え方が異なるということです。子どもがそうであることを教師は知らされていない場合もありますし、もしかしたら本人も気づいていないこともありえます。

監修者の岡部正隆さん（慈恵医大、教授）は、かつて私とも一緒にショウジョウバエの研究をしていた研究仲間。自身、緑色と赤色をうまく区別できない色覚タイプのため、生物の研究していく上でもいろいろと困難なことに遭遇したとのこと。そこで、色覚タイプの異なる人がどのように色が見えて、どのような配慮があれば色の情報がうまく伝わるのか、色覚バリアフリーを目指す活動を研究コミュニティから始めて、その後社会に広めていった一人です。今では、カラーユニバールデザインとして、色覚タイプの異なる人にも色情報が伝わるような配慮が、少しずつですがなされてきています。あなたならどんな配慮を心がけますか。そんな気づきを与えてくれる本です。

# 最強の免疫力を手に入れろ！

## 『世界最新の医療データが示す最強の食事術
### ―ハーバードの栄養学に学ぶ究極の「健康資産」の作り方』

満尾 正（著）

出版社：小学館／出版年：2020年／ISBN：9784093106672

推薦者　**杉山 喜一**　岩見沢校　スポーツ文化専攻 スポーツ・コーチング科学コース

コロナ禍の中で、自己免疫能力向上のための対策に興味をもっていた最中、「健康診断では異常なしなのに、なぜ大病にかかってしまうのか？実は、健康診断では絶対に調べない3つの栄養素の不足が、その原因かもしれない。」といったフレーズに目が留まった。少し立ち読みしていくうちについついはまってしまい、結局、後でじっくり読むために購入した中の1冊である。少し内容を説明すると、ビタミンDは、がんや動脈硬化、糖尿病、うつ病などの予防効果に加え、免疫力アップ効果によって新型コロナウイルス対策としての可能性が世界中で報告されているという。しかもこのビタミンDに加えて、それを活性化する「マグネシウム」、それと相乗効果を生み出す「亜鉛」を含めることで、「最強の免疫力」を手に入れることができるという。これら内容は、もちろん科学的エビデンスを踏まえたもので、いずれも説得力がある。参考までに自分の日常の食事内容を分析してみると、確かにビタミンDを含む食材が多く、また偶然ではあるがサプリメントとして、しばしばマグネシウムや亜鉛等を摂っていた。そのせいか、長い間、風邪とかウィルス感染といった経験がないのも偶然ではないかもしれない。本書は栄養学的知識が無くてもある程度理解しやすい内容なので、是非ともおすすめしたい。

# 仁義なき戦い　病vs.人類

## 『感染地図―歴史を変えた未知の病原体』

スティーヴン・ジョンソン（著）
矢野 真千子（翻訳）

出版社：河出書房新社（河出文庫）／出版年：2017年／
ISBN：9784309464589

推薦者　角 美弥子　岩見沢校　芸術・スポーツビジネス専攻

新型コロナウイルス感染症という「病」の災禍が人間にはもちろん、社会・文化にも様々な影響を及ぼしたことは、今この世を生きる人々には大きな瑕疵となって残ったことだと思います。人類は遠い昔から疫病に悩まされ、打ちのめされ、それと戦う術を探してきました。世界史を学べば必ず出てくる黒死病や天然痘、現代史では新型コロナの前哨戦のようなスペイン風邪やSARS、あるいは社会的な問題を投げかけたAIDS、今もなお戦っている結核、枚挙にいとまがありません。この本は、そういった疾病のひとつであるコレラの19世紀イギリスでの流行と病と、当時の攻防の模様を描いたドキュメンタリーです。証拠を一つ一つ重ねて「病」の謎に立ち向かう様子は、このような疾病のみならず真実に対峙する勇気の重要性を私たちに示してくれます。当時の生々しいイギリスの姿も詳しく、ヨーロッパの光と影も知ることができるでしょう。病と闘うたびにそれを克服し強くなる人類の一員として、読んでみてはいかがでしょうか。

# 北海道で生きるということ

## 『ヒグマとの戦い ― ある老狩人の手記』

西村 武重（著）

出版社：山と溪谷社（ヤマケイ文庫）／出版年：2021年／
ISBN：9784635049184

推薦者　**大橋 賢一**　旭川校　国語教育専攻

大正年間の北海道を描いた手記です。主に釧路・根室が舞台となっていますが、道北地方に関して言えば、和寒の熊狩りの話もでてきます。北海道の歴史が理解できる、生々しい記述に溢れています。

100年前は、狩猟が生活を支える重要な基盤になっていたことが手に取るようにわかります。また、和人とアイヌの関係も丁寧に書かれています。

北の大地で生きていくことの難しさ、だからこそ感じられる喜びが、いきいきと記されています。

今年、札幌でクマが撃たれた話がありました。昨今、クマと人間が共生することが話題になっていますが、「生きる」とはどういうことか、「狩りをする」とはどういうことかを考えさせられます。是非、手に取って読んでみて下さい。

# 絵を見る楽しみを増やしてみる

## 『簡単すぎる名画鑑賞術』

西岡 文彦（著）

出版社：筑摩書房（ちくま文庫）／出版年：2011年／
ISBN：9784480428851

推薦者　三上 修　函館校　地域協働専攻 地域環境科学グループ

「モナリザを見ても何がいいのかわからない」「セザンヌの絵は歪んで見える」「ピカソに至ってはもう訳が分からない」。名画に対して、きっとそんな感想を持つ学生が多いだろう。しかし本書を読むとそれが氷解する。この著者の考え方が絵画をみる唯一のものではないが、それでも新たな視点を提供してくれる。「そもそも絵を見ることになんて興味がない」という学生も多いだろう。私も若いころはそうだった。しかし絵を見ることを楽しみにできれば、人生の楽しみが一つ増える。旅行に行って天気が悪くても、その地域にある美術館で半日は楽しめるようになる。しかも、この世の歴史は、美術によってつくられている面もあるから(だから世界史の教科書には絵画がよく出てくる)、世界を理解する上でも知っておいたほうがいい。また、たかが紙と絵具でできたものが、何十億円もする場合もあるのだから、そこにはそれだけの価値を認める人がいるということだ。と言うことは、その価値を知ろうともせずに人生を終えるのはもったいない。本書を読み、絵を見るきっかけにしてみてはどうだろうか。

# 壁にぶつかった時に
# マインドセットを変えてみよう！

## 『前向きに、考える
## ―演奏家のためのメンタル強化術』

矢野 龍彦（著）

出版社：音楽之友社／出版年：2020年／ISBN：9784276316058

推薦者　杉山 喜一　岩見沢校　スポーツ文化専攻 スポーツ・コーチング科学コース

ベストセラー『骨体操』シリーズでおなじみの桐朋学園大学教授・矢野龍彦による、演奏家のためのメンタル・コントロールに特化した必携本。心の根本的な在り方に徹底的に焦点を当て、ものの見方考え方を多様にして苦しさも楽しさに変えていくことを提案する。どんなことも創意工夫すれば解決策が見えてくる、またそのような考えのうえで生きていくとさまざまなことが楽しめると説く。第1章では、項目ごとに「こういう状況ではこうするとよい」という実例を見せながら進んでいくが、第2章では日々の生活の仕方、ひいては生き方においてどのような意識をもっていれば、さまざまな困難にぶつかったときに自分なりによい方向へ持って行けるか、人生のヒントを惜しみなく提示する。総じて、本書は、心の根本的な在り方に徹底的に焦点を当て、ものの見方や考え方を多様にして、苦しさも楽しさに変えていくことを提案する。

# 目指せ！努力の天才！

## 『努力の天才
## ―高橋尚子の基礎トレーニング』

山内 武（著）

出版社：出版芸術社／出版年：2002年／ISBN：9784882932253

推薦者　杉山 喜一　岩見沢校　スポーツ文化専攻 スポーツ・コーチング科学コース

やや古い本であるが、現在マラソン解説者として活躍しているシドニーオリンピック金メダリストQちゃんこと、高橋尚子氏の大学4年間の足跡をたどったいわば彼女のマラソントレーニング史である。本書の説明内容によれば「ダイヤモンドの原石だった高橋尚子の大学時代。この原石を磨き、世界一の輝きを与えたのは名伯楽・小出義雄氏だが、鉱山から掘り出してきたのは大阪学院大学時代の恩師・山内武監督だった。その山内監督が、高橋の学生時代と競技生活、4年間のトレーニング内容を詳述する。」とある。その中で、Qちゃんは「自分を天才だと感じたことは一度もありませんが、素質がない分、人一番努力しようと頑張ってきたことが、夢につながったのだと思います。」という。自己を冷静に分析し、走り込みは常にマイペースで楽しみながら、長距離ランナーとして必要とされる強靭な精神力と基礎的持久力の向上をはかってきた。高い目標に向けて、必要とあればあらゆることに努力を惜しまないその自然なスタイルをみていると、まさに努力しようとする才能こそが、むしろ彼女が天才であることの証であるのかもしれない。

# いろいろな外国語 ―英語以外も面白い

## 『外国語の水曜日―再入門』

黒田 龍之助（著）

出版社：白水社／出版年：2021年／ISBN：9784560089217

推薦者　**砂川 典子**　釧路校　地域学校教育実践専攻 英語教育実践分野

著者はスラヴ系言語（ロシア語やウクライナ語、ポーランド語、チェコ語、スロバキア語等）、つまり、私たちが日ごろ接することはまずないいわゆるマイナー言語の専門家です。この本は4章立てですが、最も読み易く、また面白いのは、理系大学で学生にロシア語を教えていた時のエピソードが入った第一章の「水曜日の外国語研究室」です。ヨーロッパで使用されている言語とはいえ、英語やフランス語、スペイン語といった言葉とは全く異なる不思議なマイナー言語になぜか惹かれた理系の真面目な男子学生が、ロシア語をせっせと学んだり、ムーミンを原語で読んでみたいといった動機からフィンランド語を学んだりします。彼らは、謎めいた文字や、異なる文法や発音を持つ言葉に悪戦苦闘しますが、時に著者の助けを借りながら、少しずつ上達していくのです。この本を最初に読んだ時は、世界には本当に多様で多彩な言語が存在しており、どんなにマイナーな言語でも必ず学ぶ人がいるのだなあということに感心しました。同じ著者の『羊皮紙に眠る文字たち―スラヴ言語文化入門』も大変面白いですよ。『水曜日』と同様、著者の言葉への愛が感じられる、素晴らしい本です。どちらの本も北教大の図書館にありますので、ぜひどうぞ。

# 現代から古代へ、朝鮮から中国、そしてインドへ

## ―「漢文訓読」の大いなる旅路を辿る

### 『漢文と東アジア―訓読の文化圏』

金 文京（著）

出版社：岩波書店（岩波新書）／出版年：2010年／
ISBN：9784004312628

推薦者　関谷 由一　釧路校　地域学校教育実践専攻 国語教育実践分野

私たちの生活に欠くことのできないもの、それは文字です。日本語の文字は、漢字・平仮名・片仮名ですが、平仮名と片仮名は漢字を崩したものです。つまり、日本語の文字表現は、元をただすと、全て漢字に行き着きます。漢字とは読んで字のごとし、「漢」、すなわち中国の文字です。漢字は中国語を表現するための文字でした。中国語と日本語とでは、語順をはじめ、文法構造が全く異なります。日本人の祖先は、全く異なる言語である中国語から、漢字を借用しました。その際、日本語の語順や文法、日本語の単語の意味に合わせて、漢字を用いる工夫を生み出しました。それが、漢文訓読です。

ところが、この漢文訓読、実は日本人がゼロから「発明」したものではなかったようです。近年の研究では、朝鮮やウィグル、契丹、ベトナムなど、中国周辺のさまざまな民族が、それぞれの方法で、漢文訓読に類する作業を行っていたことが明らかになっています。そして、それらの諸民族の「漢文訓読」は、実は中国において、インドから輸入した仏典を中国語に翻訳する作業（漢訳）を通じて、会得された方法であったと考えられるのです。

本書を読むことで、東アジア文化の歩んだ壮大な旅路を辿ってみませんか。

# 古文嫌いの君へ

## 『サイエンス・ライターが古文のプロに聞く こんなに深い日本の古典』

黒澤 弘光、竹内 薫（著）

出版社：筑摩書房（ちくま文庫）／出版年：2019年／
ISBN：9784480436184

推薦者　内藤 一志　函館校　地域教育専攻

高校時代の古文の授業って楽しかったですか？　と聞くのをためらうほどに、古文の授業は人気がない。「文法」と「口語訳」で終わって、「だから、どうしたの？」と、勉強の意味や、やり甲斐を感じなかった人も多いかも知れない。

この本は「だから、どうしたの？」に応えてくれる。古文の面白さを伝えてくれる書だ。

黒澤氏は元筑波大学附属高校の先生で、授業名人と言われた人。私も一度授業を参観したことがあるけど、「こんな授業をしてみたい！」と感銘を受けた。もう一人の竹内氏は黒澤氏の教え子で、二人の対談で展開される。

どれだけ、面白いか。それは読んでからのお楽しみ。絶対、がっかりはさせません。

# 女を男にし、絵の中の風景に入り込み、君臣上下を一つの世界に取り込む和歌のパワー

## 『和歌とは何か』

**渡部 泰明（著）**

出版社：岩波書店（岩波新書）／出版年：2009年／
ISBN：9784004311980

推薦者　**関谷 由一**　釧路校　地域学校教育実践専攻 国語教育実践分野

皆さんは、小学校時代以来、短歌や俳句に触れる機会があったと思います。短歌は「五七五七七」、俳句は「五七五」です。俳句の「五七五」は連歌に由来していますから、乱暴に言ってしまえば短歌に行き着きます。ただし、長歌というものもありますから、短歌と長歌を含めた「和歌」というのが正確な言い方になるでしょう。日本文学の歴史は、和歌なしにはほとんど何も語ることができません。

ではなぜ、日本人、特に都の貴族たちと、その仲間になろうとした武士、町人たちは、和歌に執着してきたのでしょうか。本書の著者は、和歌の本質は「演技」で、その世界は「虚構」であると断じます。和歌は、詠む者の生身の感動を言葉にするものでは【ない】のです。

一例を揚げると、百人一首に、「玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする」（命の糸よ。途切れるなら途切れよ。もし生き延びでもしたら、弱りはててこの恋を秘密にしていられるかもしれぬ）があります。作者・式子内親王は女性ですが、この歌は、実は「忍ぶ恋」という題で作られた男性の立場の歌であったと見られます（本書p222）。

本書を読むことで、ジェンダーをも超越する「演技」の舞台を観劇してみませんか。

# 読みすぎると
# 病気になるかもしれない本

## 『燃えよ剣』

**司馬 遼太郎（著）**

出版社：新潮社（新潮文庫）／
出版年：1972年／
ISBN：［上］9784101152080
［下］9784101152097

推薦者　三上 修　函館校　地域協働専攻 地域環境科学グループ

本書は、歴史小説家の大家である司馬遼太郎が、新選組の土方歳三の生涯を描いたものである。2021年には同タイトルで映画にもなっている。世の中には一定数、特に40代後半以降に多い気がするが、司馬遼太郎ファンがいる。その人たちとの会話のネタ作りのためにも、本著者の作品を1冊くらい読んでおくと良い。戦国武将が好きならば同著者の「播磨灘物語」「関ケ原」などでも良いが、道民であれば函館も舞台となっている本書が良いだろう。それに初めて司馬作品を読むのであれば、こちらのほうが読みやすい。司馬遼太郎作品には、すごく「重い」ものもあるが、本書は「軽い」部類に入る。なお、これがきっかけで司馬遼太郎ファンになるのはよいが、たくさん読むと「司馬史観」という中毒性のある病気になる場合があるので注意が必要である。そうなりそうだったら、同時代の双璧をなす、もう一人の「太郎」がつく作家、池波正太郎作品を読むと良い。こちらは文章が軽快で、病気になることはない。

# 疲れた心にやさしいひとときを

## 『学校のぶたぶた』

矢崎 存美（著）

出版社：光文社（光文社文庫）／出版年：2015年／
ISBN：9784334769321

推薦者　**後藤 俊一**　札幌校　理数教育専攻 算数・数学教育分野

山崎ぶたぶた氏は料理好きで渋い声の中年男。お酒が好きで、酔って記憶をなくすこともありました。彼が活躍する物語はこれまで30冊以上出版されていて、設定はその都度違って、町の本屋さんだったり、刑事だったり、人気のパテシェだったり、図書館で“ぬいぐるみのお泊まり会”の手伝いをしていたりします。“ぬいぐるみのお泊まり会”は札幌市立図書館でも開催されました。彼は結婚していて娘さんが二人いるようです。

21冊目の本作ではある中学校にスクールカウンセラーとしてやって来ます。彼はほかのお話の中でもよく悩み事を打ち明けられますが、解決策を授けたり直接助けたりといったことはしません。そのあたりはちょっと厳しいのです。

ただ、去年注）2020年のことは彼のおかげで私も気持ちが少し楽になりました。皆さんも彼と知り合って、ときには一緒にお弁当を食べてはいかが。

# 漫画の神様・手塚治虫の遺稿に、直木賞作家・桜庭一樹が新たな命を吹き込む!!

（出版社によるコピー）

## 『小説 火の鳥 大地編』

桜庭 一樹（著）
手塚 治虫（原案）

出版社：朝日新聞出版／出版年：2021年／
ISBN：［上］9784022517432
［下］9784022517449

推薦者　木戸口 正宏　釧路校　地域学校教育実践専攻 発達教育実践分野

その昔、学校図書館や学級文庫などにあった手塚治虫『火の鳥』シリーズを、夢中になって読んでいました(みなさんは読んだことはありますか?)。太古の昔から遙か未来までを縦横に行き来しながら、手塚は最後に「近現代」の日本を舞台とした「火の鳥」を描こうとしていました。手塚の死去により実現しなかったその構想を、その遺稿をもとに作家の桜庭一樹が小説として再創造した作品です。

1938年、日本占領下の上海から始まる物語は、日本の「近代」を「やり直そう」とする登場人物たちが「火の鳥」の力を利用して、ある「装置」を開発することによって、実在の人物をも巻き込みながら、私たちが知る「歴史」とは異なる展開を見せていきます。この「世界」の「日本」は果たしてどうなっていくのか・・・。ぜひみなさんの目で確かめてください。

# 孤独に粘り強くものごとを考える力は、物語を読むことでしか育たない。

## 『騎士団長殺し
〈第1部〉顕れるイデア編』

村上 春樹（著）

出版社：新潮社／出版年：2017年／ISBN：9784103534327

推薦者　菊野 雅之　釧路校　地域学校教育実践専攻 国語教育実践分野

「文学とか古典って役に立つんですか？」という問いを目にすることが多いです。なかなかそういう問いを直接問われたことはありませんが、もし、そう問われたら「役に立ちます」と答えます。要は、「役に立つ」ということの範囲や定義の問題になります。そりゃ GAFA（ガッファ）のような役立ち方とは違うのはいうまでもありません。でも、孤独に粘り強くものごとを考える力は、孤独に物語を読むことでしか育ちません。そういう孤独で誠実で深い思考は、啓発書やハウツーのような「役に立つ」本では育ちません。別に村上春樹じゃなくてもいいんです。物語を手に取り、静かに粘り強く読むことが、あなたの静かな思考力を育てます。

# 地下鉄サリン事件被害者の1人1人の人生の物語

## 『アンダーグラウンド』

村上 春樹（著）

出版社：講談社／出版年：1997年／ISBN：9784062085755

推薦者　三上 謙一　保健管理センター

本書は小説家の村上春樹氏が地下鉄サリン事件の被害者にインタビューをしたノンフィクションです。地下鉄サリン事件とはみなさんが生まれる前の1995年にオウム真理教が引き起こした世界を震撼させた大規模なテロ事件です。当時僕はみなさんと同じ大学生で、半年間のオーストラリアへの交換留学を開始して間もない頃でした。あの頃はネットもまだ普及していなかったので、日本の情報もすぐには入りませんでした。ある日タイ人の友人が「東京の地下鉄で何かあったらしいよ」と教えてくれたので、翌日大学の購買に行くと、麻原彰晃の大きな写真が地元の新聞の一面にデカデカと載っていたのを見て驚いたことをよく覚えています。

サリンという毒ガス被害の影響はどの車両に乗っていたかによるのですが、本書は車両ごとにインタビューをまとめているので、どの車両で何が起きていたのかが各自の視点によって生々しく語られていきます。しかし、本書が素晴らしいのは事件現場の描写だけではなく、被害者が事件に遭うまでにどのような人生を歩んできたのか、そしてなぜあの地下鉄に乗り合わせてしまったのかを聞き出しているところにあると思います。学生時代にぜひ読んでみてください。

# 「きっとはったりだよ、フェルマーは法律家だからね」

## 『文学少女対数学少女』

陸 秋槎（著）　稲村 文吾（訳）

出版社：早川書房（ハヤカワ・ミステリ文庫）／出版年：2020年／
ISBN：9784151843518

推薦者　**後藤 俊一**　札幌校　理数教育専攻 算数・数学教育分野

本書は全４編からなる連作集で、それぞれ数学にちなんだタイトルが付けられています。“数学”が登場する小説で有名なものとしては小川洋子の「博士の愛した数式」がありますが、とてもいい話にもかかわらず“数学”の描写は現実感が薄くちょっと残念です。

それは仕方のない事だと諦めていましたが、この10数年で小説界に長足の進歩があったのか、前回紹介させてもらった「青の数学」に続き、本書に出てくる高校生の“数学少女”はとてもリアルです。数学オリンピックのメダリストらしく、同級生や先生から数学の天才と思われていますが、言動が実在していてもおかしくない程度に抑えて描かれているからでしょう。連続体仮説やフェルマーの最終定理といった誰でも知っている話だけでなく、解の存在定理や発散級数を取り上げているのも大変好ましい。

# クリスティーがどのように面白いのかを なぜだれも教えてくれないのか

## 『アガサ・クリスティー 完全攻略 決定版』

霜月 蒼（著）

出版社：早川書房（ハヤカワ文庫）／出版年：2018年／
ISBN：9784151301063

推薦者 中川 大　札幌校　言語・社会教育専攻 社会科教育分野

著者は、ミステリ評論家でありながら、クリスティーの作品はほとんど読んだことがなかったという(それもある意味すごいけれども)。いつかだれかがクリスティーがどのように面白いのかを教えてくれると思っていたのに、いつまでたってもだれも教えてくれないので、しかたがないから、とにかく読んでみようと決意した著者は、一冊読んでは論評を書き、一区切りついたらそれまで読んだなかでのベストテンを選び、という作業を延々と繰り返し、ついにクリスティーの全作品を読破する。

なんとも場当たり的に原稿を書いていったらしいのにもかかわらず、読み進み書き進むうちに、しだいにクリスティーという作家がその像を結び、同時に著者霜月の小説観やミステリ観が浮き彫りになっていく。そして、著者の年来の疑問「クリスティーがどのように面白いのかをなぜだれも教えてくれないのか」にも解答が与えられることになるのだ。本を読むとはどういうことかを改めて考えさせられる、意外な好著。

# わたしたちだれも『罪と罰』を読んだことがない

## 『「罪と罰」を読まない』

岸本 佐知子、三浦 しをん、
吉田 篤弘、吉田 浩美（著）

出版社：文藝春秋（文春文庫）／出版年：2019年／
ISBN：9784167913205

推薦者　中川 大　札幌校　言語・社会教育専攻 社会科教育分野

著名な翻訳家・エッセイスト、小説家ら４人が馬鹿話をしているうちに判明したのが、「わたしたちだれも『罪と罰』を読んだことがない」。

さて、なにしろ馬鹿話の最中である。４人が断片的にもっている情報を手がかりに、ドストエフスキーの『罪と罰』がどんな小説なのか推理することはできないだろうか、とじつに馬鹿な企画がもちあがり、さらに馬鹿なことに文藝春秋という出版社がその企画に乗って本にしてしまったのが、この「爆笑座談会」である。

４人いて、だれも大島弓子「ロジオン・ロマーヌイチ・ラスコーリニコフ」も江戸川乱歩「心理試験」も読んでいないのかよ（手塚治虫「罪と罰」は言及されるが、もちろんだれも読んだことがない）、とツッコミを入れたくもなるが、そこは手練の文章家たち、次々と奇想天外な仮想『罪と罰』ストーリーをひねり出す。

読者は腹を抱えて笑っているうちに、読書の神髄に目を開かされる。そう、読書は本を読まなくてもできるのである（いいのか？）。

Reading Well ―教育大生に贈る本― Vol.2
2022年3月18日発行
発行・編集　北海道教育大学附属図書館
札幌市北区あいの里5条3丁目１番6号

hue